

# 1 安寧の都市論

京都大学大学院工学研究科・医学研究科 安寧の都市ユニット

## 1 はじめに

多様な価値観と漠然とした不安に満たされた現代において、人々が安寧に暮らせるまちを模索、研究し、それを実現するために必要な人材を育成することが、我々「安寧の都市ユニット」に課せられたテーマである。以下は、「安寧の都市論」およびその実現に向けて、我々のユニットが提供する教育について進むべき道をまとめたものである。

## 2 「安寧の都市」とは

「安寧の都市」とは「まちづくり(都市系工学)と健康づくり(人間健康科学)、及びこれらを融合した視点を横軸にとり、都市アメニティとクライシスマネジメントの取り組みを縦軸にして、健康で快適に暮らし、活動を続けることができるまち」と定義する[資料1]。

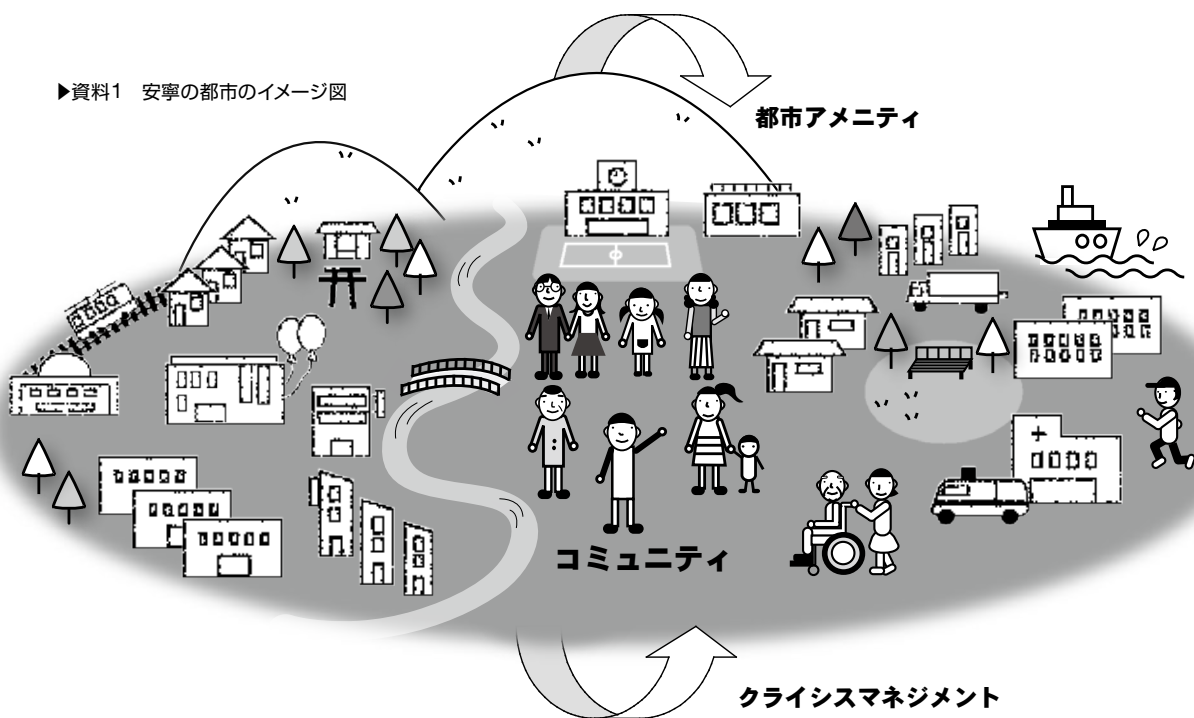
この「安寧の都市」を実現するには、「重層的に形成されるコミュニティの厚みを増すことが求められる[参考]。それには、住民をはじめ地域に関係する人たちが、コミュニケーションを通じて地域の進むべき方向性を決定し、豊かなコミュニ

ティを実現する必要がある」と定義できる。「重層的に形成されるコミュニティの厚みを増す」というのは、これまでのコミュニティでは地縁・血縁などが中心であったのに対し、今後は、重層的に存在する様々なコミュニティのそれぞれが少しずつ厚みを増し重なることによって、コミュニティ全体の厚みを増し、相互に支え合うことをイメージしている[資料2]。

## 3 安寧の都市へのアプローチ

ある地域において、例えば人口規模と水準<sup>\*1</sup>というものについて考える。ここで、より良い地域の実現には次の三つのアプローチが考えられる[資料3]。一つ目は、人口規模を動かすことでより良い水準を得る方法(ケースA)である。これは従来から多く行われてきた手法である。二つ目は水準そのものを向上させる(水準を表す曲線を引き上げる:ケースB)方法であり、三つ目は別の基準を用いることでより良い水準を得る方法(ケースC)である。ケースBやケースCは安寧の都市へのアプローチとして重視したい考え方である。これら三つのアプローチは相反するものではなく、併存しうる。すなわち、画一的なモデルや水準の平均値、基準値などを目安に

▶資料1 安寧の都市のイメージ図

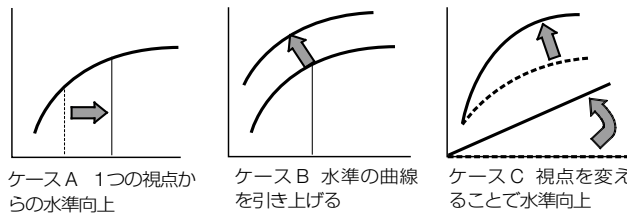


▶資料2 重層のコミュニティのイメージ

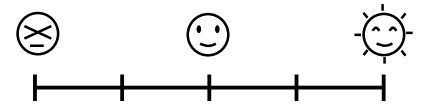


葉は重なることで木全体を支える

▶資料3 水準のあり方についてのアプローチ



▶資料4 ニコニコ指標



\*1 ここでいう水準とは地域社会の状況や活動を示す指標である。医療や公共交通などのサービス水準、社会資本の維持コストなどを想定できる。都市工学や人間健康科学では、人口指標はまちづくりと健康づくりの重要な因子となっている。

\*2 仮に病気や障がいがあっても快適に暮らし、活動を続けることができることを含んでいる。

するのではなく、自らの水準をその地域やコミュニティにふさわしいものに合わせていく方向である。また、各水準の向上を個別に目指すのではなく、複数の水準の総和の増大を目指す方法もある。

したがって、それぞれの地域の実情に応じて目標となる「安寧の都市」の姿は異なり、実現する手順も異なる。すなわち、満点である正解からの減点法ではなく、様々な視点から長所を伸ばす加点法によるまちづくりを志向すべきである。

## 4 評価指標

その際には、それぞれの都市において、いくつかの価値基準を設定する必要がある。例えば「効率性を越えた余裕の重要性」や「すべてを満足することはできない」などの価値基準である。

各々のまちで目指す都市像は異なるものの、定義に示す「安寧の都市」を実現するための評価基準は必須である。その基準は、人が「健康で快適に暮らし、活動を続ける\*2」ことのできるまちかどうかである。

人々が「健康で」暮らすには、なによりも人間に着目した指標としなければならない。それには社会を含めた都市構造まで考える必要がある。しかも、「快適に」暮らし続けるには、まちに住まう人々が平時に様々な視点での快適性を有するのみならず、緊急時であっても速やかに平時に復元できること (Resilience) が求められる。「活動」を続けるには、持続可能な産業や社会の安定も必要である。

また、同じまちに居住するものであっても、それぞれの立場によって居心地の良い環境は異なり、同じ一人の人物であっても、状況に応じて複数の立ち位置をもつ。そのため、「安寧の都市」は、状況に応じて望む環境を選択できる柔軟性を備えたものでなければならない。

繰り返しになるが、それらの指標はいずれも絶対的なものではない。他との比較により優劣を比べられるのではなく、人々の地域に対する総合的な満足度で評価されるべきもの

である。我々はこれに「ニコニコ指標」[資料4] の名を与えている。ニコニコ指標は、健康、快適、コミュニティ、活動、余裕、機能、復元力などの要素から構成される。

## 5 安寧の都市ユニットにおける教育

安寧の都市ユニットでは、まちづくりのための工学及び健康医学の基礎知識を提供するとともに、まちづくり・災害対応等における専門知識を講義し、さらに受講生が実際に対峙している課題を対象に、都市アメニティとクライシスマネジメントの視点から、地域コミュニティを通じてのまちづくりを実践する互学互習による実践プロジェクトの演習を行う。

安寧の都市ユニットでは、これらの講義・演習を通じて、地域の実情をふまえた「安寧の都市像」を構想し、それを実現する手段・方法を身につけ、地域で中心的に活動を担うことのできる人材、すなわち「安寧の都市クリエイター」の養成を目的とする。

▶参考 安寧の都市重層コミュニティ概念図

